

令和元年(2019年)度 自己評価及び学校関係者評価書

令和2年2月27日
札幌市立元町中学校

1 本年度の重点目標

1 組織の機能と連携を生かした学校経営	2 学ぶ力の育成	3 豊かな心の育成
4 健やかな身体の育成	5 信頼される学校の創造	6 教職員の指導力・資質の向上、働き方改革

2 本年度の経営方針

1 教職員自身が実践的指導力等を高めるとともに、教職員相互が認め合い、教育目標達成のために協働する学校運営と環境づくりに努める。
2 評価を通して、新たな課題解決に向かう意欲を自己決定させる仕組み作りに努め、自ら学習に取り組む生徒の育成を目指す。
3 特別な配慮や支援を必要とする生徒個々の困り感を複数の情報共有からの確に把握し、適切かつ効果的な支援と指導の充実を図る。
4 生徒の自己肯定感、自尊感情、自己有用感の向上に心がけた教育活動を推進する。
5 地域・近隣教育施設とのコミュニケーションを積極的に行い、地域と協働した生徒の育成に努める。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価 (A: 成果があった B: 概ね良いが課題もある C: 改善が必要)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校運営	学校教育目標、学校運営の重点、求める生徒像が分掌・係で適宜扱われ、教育活動に生かされている	A	すべての教職員が学校教育目標、重点を理解し、一丸となって教育活動に生かしていく意識をもち、実践する。	A	A
	教科・特活・道徳・総合の時間配分は適切で時数も確保されている	A	各行事や諸会議との調整を図りながら年間計画に基づき適切な時数の確保に今後も努める。	A	A
	分掌間、係間の連絡調整が図られ、前年度の反省を生かしながら効率的に運営が行われている	A	今後も分掌間などの連携や連絡調整を各会議や日常の場でも図りながら、最善の努力を行う。効率の良い引継ぎを行う。	A	A
学校関係者評価委員による意見					
学習指導	生徒の意欲を引き出す授業を工夫している	A	どの授業においても「分かる、できる、楽しい授業づくり」に向けた取組を進めていく。協働的な学習を通して、個人だけでなく、集団の中での学力の向上を目指す。研修会・情報交流の充実を図る。	A	A
	生徒一人一人の特性を考慮して授業に取り組んでいる	A	基本的・基礎的な学力の定着に向け努力する。また、思考力・判断力・表現力を高める授業を工夫するとともに、学習記録などから学習習慣の確立に努力していく。	A	A
	補充・発展的学習等を加味しながら学力を付けさせる工夫をしている	B	TTの充実を軸に生徒の習熟度を考慮した学習形態や指導方法を工夫する。授業の中で知識を「生かす」場面を意識的に設定する。	A	B
進路指導	生徒の能力や努力を見取り適切に評価している	A	生徒の努力や取組の過程を認め励ますと共に、学習意欲の向上につながる評価の在り方に努める。特に、日々の授業において適切な評価をフィードバックし、意欲につなげていく。	A	A
	進路のガイダンスや、相談活動が充実している	A	「生き方指導」としての進路指導を大切に特に1, 2年での進路学習の充実	A	A

			める。次年度も総合的な学習の時間を利用して、キャリア教育を適切に行うなど学年段階に応じた指導の充実を図る。		
	進路情報が適切に収集され、生徒や保護者に提供されている	A	未来に生きる「生き方指導（キャリア教育）」として全体計画・年間指導計画に基づいた資料作成や提供を行う。次年度も生徒や保護者の要望を考慮し有益な情報が提供できるよう努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見					
生活指導	生徒が抱えている問題を、見逃さず適切に対応し、安心な環境作りに努めている	A	生徒に寄り添いながら、小さな問題を見逃さず、安心して学校生活を送ることができるよう全教職員で努力する。	A	A
	生徒の間違った行動に対して、愛情と厳しさをもって対応している	A	具体的な事実を生徒が理解できるように伝え、生徒の心に寄り添う指導を行う。	A	A
	生徒が相談しやすい雰囲気作りに努めている	B	日常の触れ合いを大切にする中で信頼関係を築き、相談しやすい雰囲気づくりに努める。	A	A
	生活指導を通して、保護者との信頼関係づくりに努めている	A	家庭連絡を密にする中で、学校の指導方針や内容が正しく伝わるよう努めるとともに、学校と家庭が連携して生徒を見守る環境づくりに努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見					
道徳指導	生徒の心の成長や人間としての生き方を考えさせる指導を適切に行っている	A	道徳の授業での指導内容の充実に努め、学校行事や学年・学級活動などを通して、自己肯定感や人間関係形成力の醸成を図る。	A	A
	道徳的な力を養うための時間が適切に確保されている	A	今年度同様時数のバランスを大切にし、道徳の時間が適切に確保できるように年間指導計画に基づき実施する。	A	A
学校関係者評価委員による意見					
家庭との連携	学校・家庭・地域が連携して子ども達を見守り、指導していく体制ができていると思う	A	青少年健全育成推進会を中心とする連携や活動の充実、校種間連携の体制づくり努める。学校だより等を通じて、「開かれた学校づくり」に努め、地域と連携して教育活動を行う。ボランティア活動等の地域活動を継続する。	A	A
	学校が家庭に出すホームページ・文書等は適切である	A	学校だよりや学校 HP が生徒の様子や活動内容を伝える手段となるように今後も発信に努める。	A	A
	保護者に各種たよりやプリントが届いて、学校や子どもたちの様子を知ることができる。	B	生徒がプリントを保護者に毎日渡したり、忘れ物をなくすなどの工夫が必要。学活ノートを活用し、生徒の生活習慣改善に努める。	A	B
学校関係者評価委員による意見					
健康	学校は生徒の健康と体力の向上に努めている	A	引き続き、様々な機会をとらえて、健康について考える。体力の向上を図るようにしていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・少しでも不登校の生徒が少なくなるよう指導をお願いしたい。 ・進路だよりを1年生から配付する取組は保護者としても情報があるので安心感ももて良いと思う。 			